

# 実践記録 シリーズ 115



## 自立と社会性の育成をめざしての少年教室 ～親とはなれて、親とともに～

長岡市和島公民館 館長 羽鳥 仁一

- 1. 平成の大合併と当地域 (省略)
- 2. 当地域の概要 (省略)
- 3. 和島公民館の概要 (省略)
- (1) 施設 (省略)
- (2) 分室の職員構成と業務 (省略)
- 4. 少年教室の活動

(1) 沿革  
昭和61年度に発足した。発端は各種スポーツ教室等における子ども達の言動の変容だった。名前を呼んでも返事はない。自己中心的な行動が目立ち、挨拶もできない。注意してもなぜ注意されたかがなかなか理解できない。これらの声が届き出した当初は例外的な事例と思っていたが、ほどなく共通した問題として捉えるべきだと気付かされた。

子どもと何をどのようにしたらいいのか？スポーツ教室は教室なりの取り組みをするのだから、それと異なった方向性の育成事業にすべきだろう。

親と離れた所で活動し、多様な活動内容を用意する。仲間をつくり、協同しての体験活動をさせる。同じ土俵の中で自分の力を発揮させる。汗をかかせる。泣きべそをかいてもいい。でも続けさせよう。様々な思いを抱きながらの船出であった。

以後、会場等の都合もあり、また、前年度の活動や年々の出来事等をふまえながら、学習内容や方法はかわるものの、一貫して宿泊研修を欠くことなしに実施してきた。そして、常に五感を使っただけの体験活動を基調としながらも、体験を経験に昇華するように心掛けてきた。単に体験したということでは終わらせたくなかった。何故ならば、社会性は経験知的な積み重ねから育成されるからである。

### (2) 活動内容

活動の内容は、生活体験、運動体験、集団体験、奉仕体験、自然体験、勤労体験、創作体験等の諸体験を組み込むようにつとめている。間接的な体験の効用を否定するものではないが、昨今の子どもは明らかに直接体験が不足していると思うからである。また、担当者は数年毎にかわるので、それぞれの独自性を発揮してもらいながら、教室自体の経験知をも年々大きくするように工夫してもらっている。

### 5. 海洋教室の活動

#### (1) 沿革

昭和58年の「海洋センター」竣工にともない、「B & G 海洋クラブ」が誕生した。設立当初のクラブでの活動内容はカヌーやボートによる競技性の高いものだった。対象者は小中学生だった。担当者(指導者)の方針もあったのであろうが、やがて中学生の参加が途絶えるようになった。

小学生中心の活動になってからは競技性より、自然と親しむことにウエートを置くようになった。活動内容もカヌーやOPヨットをベースにしながらも、水泳はもとより、登山、釣り、スキー等と多彩にした。少年教室と違い、親の積極的参加を促した。教室の名称も「海洋教室」と変更した。

#### (2) 活動内容

この教室の基本方針は施設の全面移譲を受けたとはいえ、「B & G 財団」の寄付行為と無縁であってはならない。そこでは青少年を対象に、海洋性レクリエーション事業を基軸とした実践的体験活動を通じて、豊かな人格形成に寄与することを目的としている。だが、最近の「B & G 財団」の活動内容は老人の転倒防止プログラムや野山で自然と親しみ楽しむこと等を大幅に取り込んでいる。結果論ではあるが、カヌーやボートを中心に競技力の向上をめざしていた活動内容を容縮させたことは、方向性として良き切り換えだったといえる。

(1)に記した活動以外にも、それぞれ担当者が工夫を凝らし、マッチと蠟燭以外の熱源に頼らない1泊3食の生活体験、星空を眺めて一夜をあかしたり、様々なマリンスポーツを楽しむことや地域内の湧水を飲み水マップに表示すること等も行ってきた。

別掲の学習内容表をご覧ください。

### 6. 成果と課題

#### (1) 少年教室

少年教室では子どもがリーダーを中心にグループで活動することが多い。最初に全般的な説明や諸注意をした後は、準備、学習活動、後始末とリーダーに指示をし、活動させる。うまく事が運ばないこともよくある。このような時、家庭でお手伝いをしていての子とそうでない子の違いが現れたりする。グループ内で得意不得意の分野をお互いに認めあうようになる。実質的なリーダーが明確になると、役割分担もうまくゆき、円滑な活動が出来るようになる。親の視線や声の届かないところで、人との関わりやそれぞれの役割を体験的に理解しあうことで、より社会性を高めることができるのではなからうか。

地域の子どもの生活体験や自然体験は想像以上に希薄だった。純農村地域で豊かな自然に恵まれている。祖父母と同居している家族構成が多い。一見するに、直接体験を日常的に行っているような環境といえる。だが、このような地域性とは無関係だと思ってしまうのが現実的なのである。

人格形成には間接経験や座学だけではその効果は思う程には上がらない。そのためにはlearning by doingと教育学者デューイもいうように、体験を通して行う様々な学習が必要不可欠なことと思う。

成果はあまり性急に求めてはならない。思わぬ時に思わぬ形で現われる。時にはこちらで予期せぬ成果となって現われるのである。また、想像しなかった事態が生じ対応に窮したり、不測の事故が発生することもある。引率者に対しての試練をも包括するのが体験学習だといえる。

少年教室の参加者は3年生から6年生である。3年生と6年生では心身の成長に大きな開きがある。学年の幅がありすぎるかなとの思いは発足当時からあったであろう。現在も同様な思いはある。だが、少子化が進む時代的背景を考えると、ある程度人数があつてこそ教室が意義をもつのであるから、対象者は現状のままにせざるをえない。

現在当地域には二つの小学校があり、両校の児童が教室に参加している。2年後には統合小学校が完成する予定である。少年教室では両校の児童が一緒にいることで、日常的な状況を断ち、緊張感をもってスタートをきれたが、今後は様相が違ってくることを想定し、相応な手立てを講じなければならないであろう。

#### (2) 海洋教室

海洋教室では親の積極的参加を求めている。危険がともなう活動が多いこともその理由だが、親子とも同じスタートラインに立つことが多い活動がほとんどだからである。教室での親世代は生まれた時からテレビを見てきた。また、月刊漫画雑誌ではなく、漫画週刊誌に親しんできたマンガ世代である。直接体験より間接体験が多くなってきた世代である。直接体験の不足を補ってくれるのが間接体験である。この二つの体験が相俟って人は成長するのであるが、人格形成としての基本的スタンスは直接体験にある。

教室ではできるだけ親も子も同じ活動をしてもらうのだが、親の方が夢中になり、それを見て子が白けることさえある。擬似体験としての間接体験を直接体験に切り換えているのである。

新しいことに挑戦する。失敗したとき、次なる挑戦を避ける親が子どもにしきりと挑戦を奨める。泣きべそをかきながら挑戦した子の笑顔に対して、奨めたことを誇る。

海洋教室での学習内容は単独での体験活動を中心としている。自分の身体を駆使し、自分で工夫しなければどうにもならない世界での活動である。周囲のスタッフも見かねてアドバイスはするが、よほどのことがない限り自力で達成させるようにしている。懲りてしまうのと成就感は紙一重である。

果敢に新しいことに挑む子どもをみると、性格の相違もあるが、直接体験の累積度の差が大きいように思う。気弱な子でも、一つ成功すると着実に次ぎのステップに進むことが多いからである。自分の力で一つのことを成し遂げることは、子どもにとって大きな敷金であり、大きな自信に繋がってゆく。大切なのは出来たことを認めてやり、大変だったことを共感してやることである。参加することは直接体験での学びをもとめているのである。子どもが差し伸べてくれた手を少しずつでも引っ張り上げてやり、自立心を高めるよう図ってゆかなければならない。

この教室の学習内容は専門の育成士と多くのスタッフを必要とする。人の確保が最大の課題といえる。

両教室とも、教室でかつて学習し、今は学生や社会人となった人たちが応援にかけつけてくれる。嬉しく、有りがたい話である。

平成17年度 海洋教室学習内容 主催：和島村公民館

回	月	日	曜	学習内容	学習方法	時間	会場	備考
1	4	17	日	カヌー (雨天：OPヨットの進むわけ・ロープワーク)	実習	9:00～11:00	ワタチの堤 (雨天：小体育館)	
2	5	21	土	カヌー・竹の子堀 (雨天：OPヨットの進むわけ・ロープワーク等)	実習	13:30～15:30	ワタチの堤・坂谷、住雲園 (雨天：ゆきわり荘)	
3	6	11	土	カヌー (雨天：カヌー川下のビデオ鑑賞・ロープワーク等)	実習	9:00～11:00	ワタチの堤 (雨天：ゆきわり荘)	
4	6	25	土	カヌー(転覆後のリカバリー方法)	実習	9:00～11:00	B & G 海洋センタープール	
5	8	5	金	カヌー、ドラゴンボート、モーターボート遊覧等	実習	8:10～17:00	阿賀町三川B & G 海洋センター艇庫	
6	9	23	金	カヌー	実習	9:00～11:00	ワタチの堤	
7	10	16	日	南魚沼市八海山麓(サイクリング・ハイキング)	自然体験	8:00～16:00	南魚沼市(水無沢谷等)	
8	11	12	土	海釣り	実習	6:30～11:30	寺泊港	
9	1	22	土	スキー・スノーボードツアー	実習	～	キュービットパレー	
10	3	19	土	ロープワークとヨットの乗り方	実習	9:00～11:00	ゆきわり荘	